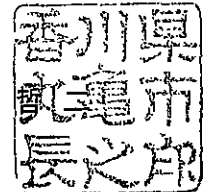


20都建第183号
平成20年10月20日

国土交通省道路局長 様

丸亀市長 新 井



今後の道路行政についての意見・提案の提出について(回答)

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のあった上記の件につき、添付書類
のとおり、回答します。

記

1. 添付書類

- 様式 ①
- 様式 ②
- 様式 ③
- 様式 ④

1. 地方道路の整備に重要な地方道路整備臨時交付金制度を堅持する。
2. 高速道路通行料金の割引制度を継続するとともに、瀬戸大橋の通行料金を安価にする。
3. 近年の人口減少に伴う今後の自動車台数の減少を考慮し、以前の計画に固執せず廃止も含め大胆な道路計画の見直しをする。
4. 全国一律の道路基準を見直し、地域の特性を把握し、その地域にあった構造や手法を取り入れたものにする。(ローカルルールを導入)
5. 橋りょう長寿命化計画の策定について
 - ①補助率のアップと、計画策定のための橋梁データの調査費への交付金制度を確立する。
 - ②橋長15.0m以上の重要橋梁ばかりでなく、緊急輸送路など道路の重要度を考慮し橋長15.0m以下のものでも補助対象とする。
6. 既存ストックを生かせるような道路改良計画を考えて行くようにする。
7. 現国道438号の交通渋滞を早く解消するため、国道438号バイパスの進捗を早める。

○現状

道路施設の重要構造物である橋りょうなどが、永久構造物というイメージから長期間補修されて来ていない。また、修繕のタイミングや架け替えの必要性など具体的な検討があまりされていない。

高速道路や瀬戸大橋の通行料金が高く、物資や人の流れを阻害し、利用率が低下している。

幹線道路の交差点がボトルネックとなり、交通渋滞が発生している。

幹線市道、生活道路の舗装が相当傷んできている。

○課題

古い橋りょうになると詳細な図面も現存していないのが現状であるので今後は、新しい橋りょうからでも図面を保存しなければならない。また、橋りょうの長寿命化計画の策定に当り、多くの予算が必要であるが、確保が難しい状況である。

通行料金の無料化も視野に入れて、料金を安くして、利用率を上げることが今後の課題である。

右折車線を確保するため、用地買収の協議を行なうが、地価が高価なため、地権者の同意を得ることができない。

切削後再舗装、剥ぎ取り後舗装のやり直し等に相当の予算が必要であるが財政が厳しく施工が進まない。

1. 本州と四国は、3橋で結ばれている現在、兵庫県以東は明石海峡大橋の勢力圏、広島県以西は瀬戸内しまなみ街道の勢力圏となり、本市が含まれる瀬戸大橋の勢力圏は、今後、鳥取県、島根県、岡山県、高知県等の南北方向の連携を強化していく必要がある。丸亀市も近隣市町はもちろん、各県の市町村との連携を強化し、本市の特徴を生かして、町を活性化しなければならない。それには、社会資本の一つである道路の整備は不可欠であり、そのことが、本市の、「住みたくなる 訪れたくなるまち」の将来像と一致するものである。

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
総合的な交通安全対策及び危機管理の強化	県道長尾丸亀線と県道善通寺綾歌線の交差点は、近隣に大型店舗が出店したこともあり、恒常的に渋滞していた。地権者の協力を得て、右折車線を設置した。	右折車線の施工により、渋滞が緩和された。施工前は、右折車線がなかったため、常時渋滞しており、無理な運転が原因で接触事故が多発していたが、施工後は、減少した。	地権者の協力が絶対条件
良好な生活空間・自然環境の形成	市道土器線は、本市の幹線であるが、以前から住宅地の真ん中を縦断しており、自動車の走行音が高く、苦情が出ていた。また、長年の使用や地下埋設物の施工で、路面状態も悪く、路面排水も十分でなかった。そこで、排水性舗装を施工した。	騒音の減少、雨天時の視認性の向上がみられ道路排水も良好で、地元からも好評である。	施工が高価であること、目詰まりの心配、寿命の心配。
総合的な交通安全対策及び危機管理の強化	市道次見水掛線は、近隣に小学校、保育所やコミュニティセンターなどの公共機関があり、地元の生活道路として、また通学路として重要な路線であるが、歩道も無く、幅員が狭く危険な状態であったため、臨交金によって、現在、道路改良をおこなっている。	道路改良により、道路と歩行者が安全に通行できるようになり、事故も減少するものと期待できる。	補償、用地買収と地元の協力が絶対条件である。